

常電導となり、これを放置すれば巨大な爆音を伴って急激に極低温冷却液が沸騰して突然に磁力を失う。この超電導磁場の突然の消失がクエンチで、1999年に山梨実験線で起きたと山梨日日新聞が報じたこともある。専門家はそれを克服できたのかどうかを問うてきたけれども、JR東海は答えたことはない。

第4に、非常時に車外に脱出した乗客の電磁波被害という問題がある。リニアに乗っただけで電磁波の影響があるのではないかということがよく言われるが、それは誤解で、リニアの車両の車内は完全に遮蔽されている。しかし、事故が起きて乗客が急ぎ脱出しなければならないという時に、車外の強い電磁波がどう影響を及ぼすかについてJR東海は口を閉ざしている。

結局、第2東海道新幹線という無駄に終わる？
以上、そもそも「もっと速く」という20世紀的思想の時代遅れに加えて、リニアの「超電導」という技術の原理的な無理無茶と実際的な未成熟があり、それでも「安倍首相のお友達」ということだけで推進されてきたのがリニア新幹線である。突き放して見れば、すでにほとんど実現不可能のようにも見えるけれども、実はJR東海は最初

から、「そういうこともあるか」と覚悟していたのではないかと上記『選択』は指摘する。

▼もしJR東海が超電導リニア開業を断念しても、中央新幹線は現在走っている鉄輪方式で開業させることが可能な構造になっている。

▼トンネルの大きさは、東海道新幹線の車両が通行できるようなサイズで作られており、経路勾配も最大40パーミルに制限され、鉄輪式車両が通行可能。つまり、超電導リニアの頓挫を織り込んだ「保険」が準備されているのだ。

▼国の財政投融资資金も投入されている。これで単なる鉄輪式新幹線の建設ということになれば、やっていることは「融資詐欺」と変わらない……。

な～に、これ。啞然とするしかない。

という訳で、リニア新幹線は、文明論的には全く以て二重に時代錯誤であり、技術論的には「穴だらけ」で乗客・乗員の命を守れるのかも疑わしい未成熟なレベルであって、こんなものを安倍首相と葛西がお友だからと行って、公費まで費やして強行するなどあり得ない。今年の「こんなもの要らない」リストの筆頭がこれである。

残留農薬

国産農作物の残留農薬調査

東京都健康安全研究センターの2017年度農作物残留農薬調査報告

反農薬東京グループ HP 2019-12-30 作成より

表1 検出数の多い農薬成分

国産農作物中の残留農薬

2017年4月から18年3月にかけての農作物(都内入手)残留農薬調査結果

残留農薬検出率は59% 21種の作物41検体から27種の農薬が痕跡～310ppb検出された。

検出率の高い農薬ではネオニコ系が目立っており、なかでも、ジノテフランは全作物70検体の14.3%に見出された。ジノテフランは水系汚染濃度が高いことや人の尿中での検出率や濃度が高いことは問題。

【野菜類】国内産野菜22種58作物のうち、15種32検体から18種の殺虫剤と6種の殺菌剤がTr(=痕跡、10ppb)～310ppb検出され、検出率は55%だった。

農薬名	検出数	検出率%	検出作物種類数	最大検出値(ppb)	作物名
ジノテフラン	10	14.3	9種	160	ニラ
イミダクロプロド	8	11.4	8種	20	メロン
クロチアニジン	8	11.4	6種	70	チジミナ
プロシミドン	8	11.4	2種	220	キュウリ
アセタミプロド	5	7.1	5種	40	ニラ
チアメキサム	4	5.7	3種	180	チジミナ
フロニカミド	4	5.7	3種	190	レタス

農薬が検出されなかったのは、カボチャ、キャベツ、サツマイモ、タマネギ、ニガウリ、ニンジン、ピーマン。

キュウリは10検体すべてから、農薬(9種の殺虫剤と5種の殺菌剤)が Tr~220ppb 検出され、複合汚染も目立つ。

最大残留値が高いのは、チジミナ(シペルメトリン 310 ppb)、キュウリ(プロシミドン 220)、トマト(ボスカリド 210)、レタス(フロニカミド 190)、チジミナ(チアメキサム 180)、ニラ(ジノテフラン 160)、レタス(アノキシストロピン 160)だった。

【果実類】国内産果実7種12検体のうち、モモ以外の6種9検体から8種の殺虫剤と7種の殺菌剤が Tr(痕跡)~140ppb 検出され、検出率は75%だった。

メロンは3検体すべてから殺虫剤や殺菌剤が痕跡~140ppb 検出された。最大値はプロシミドン。全果だけでなく果肉への移行が認められた。なかには、メロンのニテンピラムやカキのジノテフランのように、果肉の検出値の方が高いものもあった。

★複合汚染は果実やハウス栽培野菜に注意

2種以上の農薬が残留していた検体は、野菜で36%、果実で50%。キュウリで6種の農薬が検出され、4種の農薬が検出された野菜は、キュウリ2検体とチジミナ、3種の農薬が検出された果実は、カキ、西洋ナシ、日本ナシとメロン。

★検出農薬の動向と今後について

ネオニコ系農薬はジノテフランが10検体、イミダクロプリド9、クロチアニジンが7作物から検出されるなど検出頻度は高い。特に、ジノテフランの検出率は、2014年度以降国内産の野菜及び果実から検出された殺虫剤のなかで、もつとも高かった。

ミツバチ減少の一因と指摘され、EUではイミダクロプリド、クロチアニジン、チアメキサムの3農薬について屋外での使用禁止が決定している。

注:EUでは2018年12月に3種の使用規制が実施されたが、日本では現在にいたるまで規制なし



表紙絵解説—ニンニク「大蒜」

【】内は中医学における生薬名、『』内は方剤名

ニンニクはユリ科の多年草で、その鱗茎は、洋の東西を問わず、また古代から今日に至るまで滋養強壮効果で知られ、さまざまな料理に用いられてきました。ニンニクの鱗茎には、アリイン、グルタチオン、ビタミンC、ニコチン酸などが含まれ、アリインは無味無臭ですが、細胞が破壊されて酵素によって分解されると、刺激臭が強く防腐殺菌作用があるアリシンを生じます。食欲増進、健胃、整腸、緩下剤、体温上昇、疲労回復などの作用が知られ、冷え性、低血圧、慢性疾患、寄生

虫症、腰痛、風邪の予防などへの効果を期待してニンニクが食されています。ただし空腹時に食べすぎると、胃を荒らし、また一度に多く食べると貧血を招くこともあるので適量に留めるのがよいようです。

さて、中医学においてはどのように捉えられているでしょうか。ニンニクの生薬名は【大蒜】タイサン、駆虫薬に分類され、辛味・温性で、胃と大腸の経絡に入るとされます。駆虫、解毒消腫の働きにより、食滞や腹痛、下痢、寄生虫症、皮膚化膿症などに用いられます。(山田)

食政策センター・ビジョン21の機関誌「いのちの講座」は不定期刊です。(年間6回の発行予定)。

ビジョン21の会費5,000円/年(活動支援と購読)

購読のみ3,000円

送金方法は、郵便振替口座:00290-7-56537

口座名義=ビジョン21

発行責任者 安田節子

★ビジョン21事務局

〒227-0046 横浜市青葉区たちばな台 1-14-39

Tel.& Fax. 045-962-4958

E-mail:vision21@ps.catv.ne.jp

.....
<http://yasudasetuko.com>